大阪府立天王寺高等学校
令和２年度　第２回学校運営協議会　記録

日時：令和２年11月28日（土）13：30～15：00
場所：校長室
出席者：【委員】山東　功（会長）、浮邉　亜紀子（副会長）、貴志　泰正、堤　将洋、山下　由美子
【事務局】吉岡　宏（校長）、高江洲　良昌（教頭）、石田　智恵(事務長)　井上　弥（首席）、
内堀　晴則（首席）、濱口　真太朗（ＧＬＨＳ担当）、福田　友咲（記録）

１．開会

２．会長挨拶
お忙しいところ、ありがとうございます。感染の第三波ではあるがお願いします。

３．校長挨拶
レッドが心配だが、学校内での感染例が少ないことから４０人での授業が継続できそうだ。分散登校をすると、授業の内容や学校の運営が厳しい状況になる。本校では、文化展示発表会、運動会等保護者の来校をご遠慮いただく等縮小した形ではあるが行事を行なってきた。また、GoＴo トラベル事業を活用しながら、修学旅行にも行くことができた。
今後の行事については、合唱コンクールは中止になったが、長距離走大会、金剛登山、徒歩訓練等の冬の行事も行う予定である。色々と工夫しながら生徒の成長のためにつなげていきたい。
なお、学校運営協議会実施要項にオンラインでの会議出席が可能になったという項目を追加し、改訂したのでご確認を。

４．協議
（１）学校教育自己診断について
学校教育自己診断では教職員に対するもの、生徒に対するもの、保護者に対するものがある。
教職員に対するものでは、肯定評価が下がっているものは特になく、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われている」、「この学校の教育課題や日頃の教育活動における問題意識や悩みについて、教職員で日常的によく話し合っている。」は顕著に数字が上がっている。若い先生が増えたことによって、会話が活発に行われているのが原因ではないか。「保護者が授業を参観する機会が多い」でマイナスとなったのは、コロナ禍で授業参観の規模を縮小したためと考える。
次に全生徒に対する結果を見ていく。
「本校の活動を通じて他校との交流機会がある」が激減している。これについても、コロナ禍で他校との交流が減少したことが原因と考えられる。「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定評価が減少しているが、特に２年生で大きく減っていることが分かった。修学旅行にあたってコロナウイルス感染症対策等で厳しく接したことも起因しているのではないかと思う。「施設・設備全般について適切に整備されている」では、コロナウイルス関連で工事が滞っていることもあり課題が残る。「清掃活動が行き届いていて清潔である」については課題として引き続き取り組んでいく。
最後に保護者に関する結果である。「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」、「PTA 活動には参加しやすい」は減少している。これも、コロナウイルスの影響で学校行事等の保護者参加を中止したことが主な原因であろう。保護者の学校教育自己診断の提出率が 85％と高く、天王寺高校に高い関心や期待を寄せて

いるのが分かる。

【授業アンケートの結果に基づく分析と指針について】授業アンケート結果の平均値が 3.0 を超えると、全体として生徒は概ね学校の授業に満足していると考えられる。「授業内容に、興味関心をもつことができたと感じている／授業を受けて知識・技能が身に付いたと感じている」の平均値がそれぞれ 3.46(3.43)、3.50(3.48)（(　) 内はそれぞれ昨年度第 1 回の数値）と昨年を上回っている。教員の中では、「わかりやすい」授業がいい授業かという問題についても様々な考え方がある。質問項目について今後さらなる検討が必要である。

授業アンケートでは、3 年生の満足度が非常に高い。72 期が 3 年生だった昨年度も相当評価が高く頭打ちかと思われたが、それを超える数値であった。休校期間中のリモート授業に対してもそうだが、対面の授業を待ちかねていたといえる。しかし、数値が高いだけでいいとは限らない。３年かけて授業を受けて生徒、教員共にどういった変化があるのかというところが大事になる。

【生徒の活躍について】近畿大会の結果及び山岳スキー部や美術部の全国大会への出場。他のクラブでも近畿大会への出場などが決まっている。ソフトテニス部は大阪で 3 位。この苦境の中でも頑張っている。研究系の部活や科学の各種オリンピックでも、多くの成果が出ている。模擬国連においても全国で優秀な成績を収めている。生徒が何年もかけて引継いで得られた成果は学校にとって大きな力となった。

【国際交流他】コロナウイルスで国際交流行事が中止となっている。この夏の Road to GL では、海外からの招請をあきらめ国内にいる留学生との交流を行なった。今後の活動としては、オンラインを使った交流を考えている。海外の姉妹校と相互に学校や名所旧跡の紹介をオンラインで行うといったことである。日本ではコロナウイルスをどう乗り切るかが問題となっている。そういった限られた状況下で生徒が頑張っている。

（２）意見交換

委員：国語 1 年現代文で 1 項目（授業内容について、必要な家庭学習（授業以外の学習、宿題や定期考査前の復習も含む）ができている）の数値が下がっているのは何故か。

事務局：大まかな説明ではあるが、生徒はこの項目について、予習がどれだけできているかというところで回答している。例年 1 年生は、４月の学習講座で勉強の仕方について、説明があるが、オンラインで内容の一部がカットされてきた。その部分で予習の重要性が感じられず、数値が下がっているのではないか。

委員：それでは、2 年生でも低い数値が出ていることに説明がつかない。生徒が現代文は勉強しなくていいと思っているのではないか。現代文に対する危機感がないのではないか。問題を提起したい。

委員：コロナ禍であっても行事が行われているのは、非常にありがたい。民間企業でも単身・独身で連絡が取れなくなったり、失踪したりする人が増加した。学校では、そういった課題を抱える状況はあるのか。

事務局：家庭の経済状況が厳しくなってきたのではないかという事情が少しずつ出てきている。また、4、5 月の休校中に登校できなかったことが原因で不適応になったと思われる生徒もいる。

事務局：GL１０校でも、話題になっている。中学生への民間の受験指導では高校に行くことがゴールだと教えられているような傾向がある。

委員：4、5 月は天王寺高校に慣れるという例年の部分がないというのは厳しい。

委員：無駄をなくすという塾の指導は生徒の考えにも繋がっている。現代文は一番象徴的で、効率を求めるなかで現代文の勉強時間が削られやすいために先ほども苦言を呈した。家庭環境における経済的な問題は、学校生活の細かな部分で差が出る。学校教育自己診断における学校経営のところで、分掌が円滑であるということは素晴らしいことである。

事務局：教員の平均年齢が下がるなかで教員間での相談や連携がより密になっている。また、若い先生方も確実に力をつけており、授業見学なども熱心にしている。その一方で、心配もある。先輩教員が少なくなっている。

事務局：授業見学でも、見るという熱意がある先生がいることも重要だが、授業を見せてくれる先輩教員の存在も重要。そういう意味で、様々な先生方がチームとして一体になって学校を運営している。

委員：学校教育自己診断の生徒を対象とした結果で、学校に行くのが楽しみであるという数値が高いのがいい。授業アンケートの分析で、ペースを早めたことが困難を感じさせたとあるが、教科の内容が分からない生徒に対して、どうアプローチするのかということと、教員対象のアンケートの項目「清掃活動が行き届いていて、清潔である」と生徒対象の「清掃活動が行き届いていて清潔である」の数値が両方とも低く、生徒も先生も問題意識を持っているという２点を聞きたい。

事務局：トイレは、掃除しても匂いが残っている。清掃に関してはきちんとやっているが、１足制であると、汚れが激しくなる。かといって、敷地もなく下足室を作るのは難しく、やっても、やっても追いつかないという状況がある。施設自体の老朽化で傷んでいる箇所もある。

事務局：清掃に関しては、自分たちが意識してやっているかどうかということも重要になると思う。私も朝、掃除をしているが、その時に声をかけてくれる生徒もいる。自分たちにも関係があることなのだという当事者意識を生徒が持つ方法はないかということを模索している。

事務局：最初の質問に関しては、休校期間のオンライン授業を組み立てるなかで一年間の内容が終わるかどうかという問題があり、そのあたりも勘案してペース配分をせざるをえなかったことがある。

事務局：対面授業ならば、生徒の反応をうかがいつつ説明できるところも、リモートでは説明が難しかったのではないだろうか。

委員：教科間の連携があると、フォローにつながるのではないか。

委員：今年は異例な年で、気持ちの持ち方が難しい。私自身を考えても、人に会う機会が減って、気持ちが沈みやすい。そういった意味で、うまく行事をできているのが幸いである。また、先ほど話題にも挙がっていたが、民間の教育指導が健全な方向に進むといいと思う。授業アンケートに関して実技教科は、数値化しにくいと思うが、実技教科も生徒が高く評価しているのを見ると嬉しい。

　学校教育自己診断のいじめに関する項目（教員）「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」肯定 97%、（生徒）「いじめや学校生活の悩みに親身になって応じてくれる教員がいる」肯定 86%、（保護者）「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定 85%について聞きたい。教職員と生徒、保護者では結果にやや開きがあるのではないか。いじめについて相談はあるのか。あるとしたら、SNS に関係するものなどはあるか。

事務局：先月、いじめアンケートを行なった。書かれた内容は各学年で共有して対応し、人権委員会やいじめ対策委員会で全体化するとともに組織として対応を進めている。そうした組織対応をしているということが教員には見えているので、教員の高い評価に繋がっているのではないか。

委員：いじめアンケートに悩みを書いた生徒が登校拒否になったりなどはしていないのか。

事務局：いじめアンケートの内容には様々なものがある。部活での問題などもあり、どこまでどのように関わるのか丁寧なアプローチが必要。登校拒否のような重大事態につながらないよう、一面の対応だけではなく、多角的な見方や対応を行っている。

事務局：生徒は様々人間関係の悩みがあり、アンケートに出てくる。教員は、子どもに対して、寄り添うという気持ちを強く持って対応している。昨今のテレビでは、「いじる」ということが普通になっている。その影響で「いじる」ことを簡単にしてしまい、悩む生徒が出てくるといった状況につながっているのではないか。

委員：困った子が困られているというのは、発達段階での問題もあるかもしれないので保護者を含めて対応することが必要である。学習上のつまずきが、疎外感につながり「いじめ」という言葉ででてきていることもあるのかもしれない。

委員：生徒との年齢が近い先生が増えるというのは難しい部分である。生徒との悩みが共有できるという一面もあるが、距離感が難しくなる。また、生徒のうけをとりにいこうと「いじる」こともある可能性がある。子どもの状況も昔とは異なる。

委員：トイレの清掃に関して、「いつもきれいにしてくれてありがとう」等の張り紙を張れば、当事者意識にも

繋がるのではないか。自分たちが天王寺高校に所属していることをもっと自覚させるような方法があればいいと思う。

委員：学校の正門に飾っている表彰の幕について、もう少し立派な表彰の張り紙に変えることはできないか。紙であったり、幕であったりと少し見栄えが悪いのではないだろうか。

事務局：作業も不安定な場所での作業で、危険を感じることもある。嬉しいことに生徒たちが、どんどん優秀な成績を収めてくれる。もう少し工夫をしていきたいと思う。

５．閉会

教頭：次回の日付に関して 1 月 23 日（土）10 時～